日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2020 年 9 月

台湾濁水溪流域扇頂部〈竹山〉の都市と地域に関する調査報告　その 2
植民地初期の景観と市区改正の特徴

正会員　青井　哲人 *　正会員　吉田　光 ****
同　○ 相川　敬介 **　同　陳　顥禎 *****
同　武田　峻哉 ***　同　白　佐立 ******
同　棟方　佑香 ****　同　辻原万規彦 *******
同　三須　裕介 ****　同　恩田　重直 ********

台湾濁水溪流域　林圮埔（竹山）　日本植民地
市区改正　街屋　竹造家屋

1　はじめに
1-1　本論文の目的

前稿では濁水溪流域における扇頂部の上流側に拡がる沙連堡地域の清末までの歴史をたどり、その領域編成について見通しを与えた。本稿以降は、林圮埔＝竹山市街に対象を絞り、日本植民地期初期の景観を把握したうえで、市区改正の目的と特徴をふまえ、同事業の進展に伴う竹山市街の都市組織の変化についてアウトラインを描く。

2　市区改正以前の竹山市街 (林圮埔)
2-1　日本統治期初期

日本植民地（1895-1945）初期の林圮埔の発展は、雲林県下の壮丁団が鎮圧され一定の治安確立に至った 1902 年以降である。具体的には、1904 年の林圮埔消費市場をはじめとする諸種公共施設の段階的な配備と同時に、1908 年の林内 - 林圮埔 - 東埔蚋間の軽便鉄道敷設が注目される。林圮埔は濁水溪と清水溪に挟まれた台地で、濁水溪流域平野部あるいは縦貫鉄道を介した台湾全土・帝国との接続に困難を抱えていたが、台湾製糖曾社による軽便鉄道開通がその改善の画期となった。この流れに市区改正も位置づけられよう。

表 1 林圮埔の発展年表　竹山鎮誌より作成

1901 林圮埔市廳　設置
1902 原住民の平定
1904 林圮埔消費市場　設置
1906 林圮埔公學校　設置
1908 軽便鉄道開通 (林内 - 林杞埔 - 東埔蚋間)
1913 尋常小学校設置
1914 市場、農業組合設置
1917 市区改正計画発表

図 1　台湾市区計画圖 (1917 年)　林圮埔の集落の様子

2-1　林圮埔街中心

1917 年の市区計画図 (図 1) を見ると、西面する連興宮 (媽祖廟) 前に廟埕があり、そこから西へ延びる〈大街〉に沿って街屋が櫛比していた。町屋の屋敷地数はおよそ北に 30、南に 80 であり、庄（村落）とは明瞭に異なる街（商業市街）の景観をなしていたことがわかる。大街に直交して竹圍仔集落につながる〈横街〉がもうひとつの軸をなし、これ以外にも周囲に伸びる古道が確認できる。

2-2　市街を取り巻く集落

連興宮を中心とした都市的集落の周辺には、1665 年に林杞が屯田開発の拠点としたエリア (現・竹圍里) や大街と大坑溪の間のエリア（現・中正里）などに低密度ながらまとまりをもつ集落が見て取れる。三合院らしき建物もみられるが、正身のみのいわゆる一條龍も多い。

2-3　家屋構造と景観

植民地期の建物登記簿の記載からこの時期の林圮埔では家屋は竹造または木造が一般的であり、263 件の記録を確認してみるとその割合は約木造 4 割、竹造 6 割である。その他の構造形式に土埆造もあったが、わずかしか見られなかった。このように、市区改正以前の林圮埔は、連興宮・大街・横街からなる街と、いくつかの周辺集落からなる、竹造建物を主とする景観を呈していたと考えてよい。

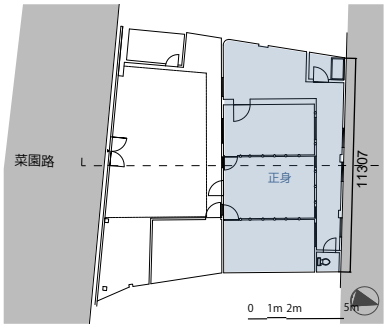

図 2　菜園路 14 號　平面図

2-4　菜園路 14 號

中正里に現存する竹造の一條龍の例をみよう。現在は三合院に似た形式にみえるが、かつては現在も竹造のまま残る正身のみであった。市区改正で前面の菜園路が開かれたため前埕が斜めに切断された。正身は竹造穿斗式で、台湾中南部の一般的な竹造の形式である（図 2 ～ 4）。

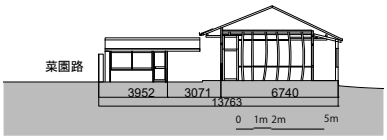

図 3　菜園路 14 號　断面図

図 4　菜園路 14 號　断面図

A Survey on Zhushan: A Town and Surrounding Region in the Intermediate Area between Plain and Mountain　Part 2
Morphological Features of Zhushan in the Early Japanese Colonial Period and the Outline of the Urban Reform

*Akihito AOI　**Keisuke AIKAWA　***Shunya TAKEDA
****Yuka MUNAKATA　****Yusuke MISU　****Hikaru YOSHIDA
*****CHEN Yin-Chen　******PEI Chouli
*******Makihiko TSUJIHARA　********Shigenao ONDA

3　市区改正による竹山の改造・拡張

3-1　市区改正の目的

『台湾日日新報』の記事によれば、当時の林圮埔市街は大街の東西両端で 26 尺ほどの高低差があり、南に迫り上がる山陵からの雨水が渦をなして市街を襲うことがあり、その悪水がペストやマラリヤといった感染症の温床になると考えられていた。市区改正事業は、市街発展の趨勢を見据えつつ、衛生政策的な観点からとくに排水溝の整備を道路建設とともに推進することを意図したものであったらしい。なお、市区計画交付後の 1920 年、台湾総督府の地方制度改革により林圮埔は竹山郡竹山庄となった。

3-2　街区計画の特徴

計画街区は、竹山市街の公共施設を包含する範囲で (図 1)、現在の竹山の景観の土台をつくった。市区改正以前の林杞埔街の主要動線をなしていた大街と横街を基準として格子状の道路・街区を計画したと思われるが、大街は角度を修正しつつ拡幅しており (図 5)、これによる土地建物は切断が多数生じた。以下、その具体的な様相をうかがっておく。

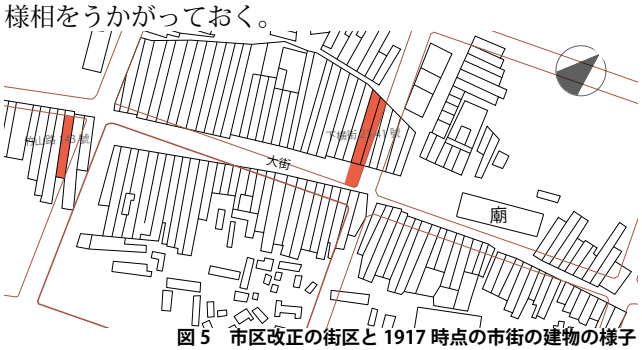

図 5　市区改正の街区と 1917 時点の市街の建物の様子

3-3　新たに切り開かれた下横街

下横街 23-41 號は、市区改正で大街に直交する街路 (下横街) が新たに建設され、このため宅地の側面が露わになった事例である。建て替えの後の街屋は、元来の大街に開く間口を、90 度向きを変えて下横街へ開いている。奥行きのきわめて浅い総二階の連棟式街屋であり、これを地主の店舗と、賃貸店舗に使ってきた。店子の啓明米麸店（31 號）では 1 階が工場兼店舗、2 階が倉庫である。

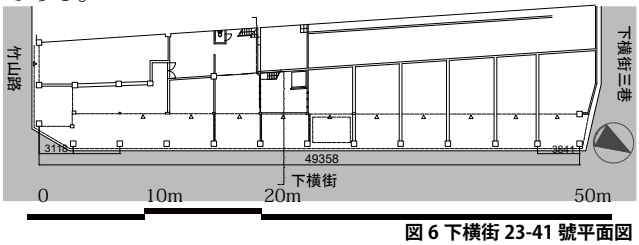

図 6 下横街 23-41 號平面図

図 7 下横街 23-41 號外観

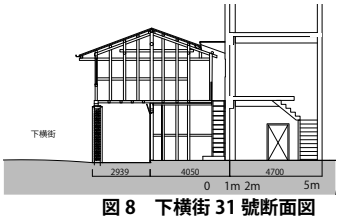

図 8　下横街 31 號断面図

3-4 面路部と背後 (143 號)

市区改正以前から狭長な地割を持って集合体を形成していた竹山路両側の宅地では、清末・植民地初期の竹造平屋を主体とする建物を、植民地期の 1920 ～ 30 年代に木造 2 階建へ、光復後の 1970 ～ 90 年代に RC 造 3-~5 階建へと材料を変えながら土地利用を高度化してきた。この動きが決定的になり景観から歴史的厚みの多くを奪うのは、1999 年の集集地震とその後の復興においてであった。

143 號の実測例の場合、店舗棟は RC 造 4 階建で、二進目からは平屋の木造家屋が続く。このように街区内部の家屋の更新がされずに放置される家屋が見受けられる一方で 9.11 によって全面的な刷新（ときに共同建て替え）が行われるケースが少なくない。しかし、市区改正によって出来上がった街区の内側の地割は、清末から比較的よく保存された状態であるといってよい。

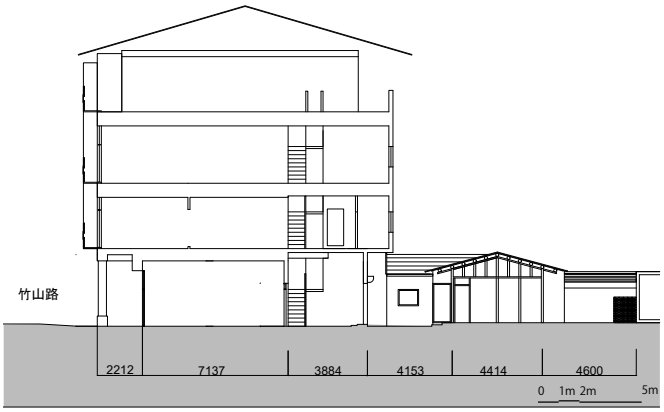

図 9 竹山路 143 號　断面図

図 10　二進目以降の木造家屋

図 11 現在の竹山路の景観

4　まとめ

本稿では市区改正以前の林圮埔の地割・景観を概観したのち、市区改正の目的、計画の概要を把握し、これが都市組織や建物形式のレベルでどのような変化や持続となって現れているかを観察した。概して、都市軸の大街では面路部の高度化、下横街など新開街路では向きと建築形式の変更によって、柔軟な対応が図られたといってよい。次稿では木造街屋を中心に、街屋の類型化作業を通して、植民地期の 1920 ～ 30 年代に進んだ都市改造がもたらした景観の具体的把握を試みたい。

＊本稿は科学研究費補助金基盤研究（B）「台湾都市史の再構築のための基盤的研究：都市の移植・土着化・産業化の視座から」（代表：青井哲人、平成 27 年～ 31 年度）の成果の一部である。

* 明治大学理工学部建築学科　教授・博（工）
** 平和エアテック (投稿当時、明治大学大学院生)・修 (工学)
*** リノベる (投稿当時、明治大学大学院生)・修 (工学)
**** 同大学大学院理工学研究科　博士前期課程
***** 国立東華大学台湾文化学科プロジェクト助教・博（工）
****** 東京大学教養教育高度化機構　特任助教・博（工）
******* 熊本県立大学環境共生学部居住環境学科　教授・博（工）
******** 法政大学エコ地域デザイン研究所 研究員・博（工）

*Professor, School of Science & Technology, Meiji University, Dr Eng.　**HEIWA AIRTEC,Ltd (Ex.Graduate Student of Meiji Univ). ***Renoveru Co.,Ltd(Ex.Graduate Student of Meiji Univ). ****Master's Course, Graduate School of Science & Technology, Meiji University.　***** Project Assistant　Professor,Department of Taiwan and Regional Studies,National Dong Hwa University.　****** Project Assistant Professor, Komaba Organization for Educational Excellence, University of Tokyo, Dr.Eng.　******* Professor, Faculty of Environmental & Symbiotic Sciences, Prefectural University of Kumamoto, Dr.Eng. ******** Researcher, Laboratory of Regional Design with Ecology, Hosei University, Dr Eng.